

【国語・小3・「はっとしたことを詩に書こう」①】

育成を目指す資質・能力

(知識及び技能) 様子や気持ちを表す語句の量を増やし、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。(1)オ
(思考力・判断力・表現力等) 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 Bオ
(学びに向かう力、人間性等) 言葉がもつよさに気が付くとともに、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

ICT活用のポイント

- ①学習支援ソフトを使って、複数のパターンのワークシートを配布することで、児童が自分に合ったワークシートを選択できる。
- ②学習支援ソフトを使って、児童同士の作品を共有することで、表現の工夫や良さに気付くことができる。

既習事項を確認し、本時の
めあてを持つ

自分が選んだワークシートを
使い、詩の一部分を書く

お互いの作品を共有し、グル
ープ及びクラスで交流する

詩を書いたり、読んだりして
気付いたことを振り返る

事例の概要

○教科書に記載してある詩の一部分を空欄にし、自分で考えた表現を記入させ、新たな詩に作り替える学習。「自分で考えた題材で詩を作る」という単元のゴールに向けて、「表現を工夫することの良さ」に気付かせるための活動。

【事例におけるICTの活用の場面①】

○複数のパターンのワークシートから自分に合ったものを選択し、詩の一部分を書く。

【事例におけるICTの活用の場面②】

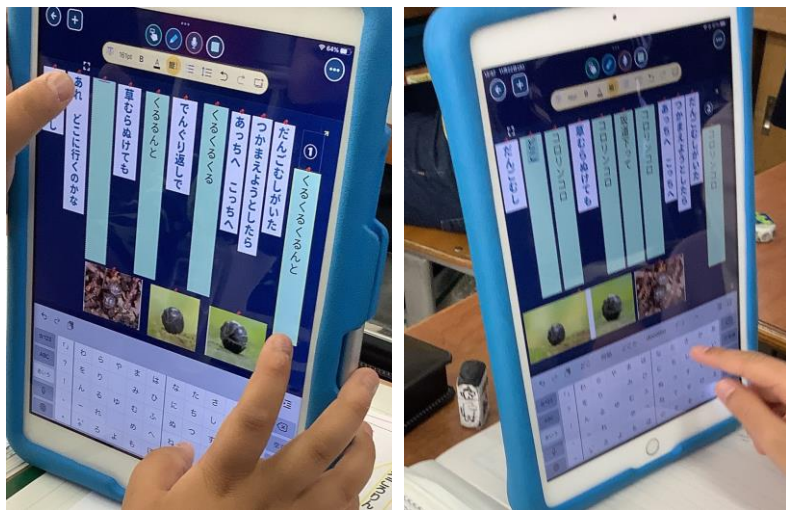
○出来上がった作品を学習支援ソフトを使って提出し、共有する。表現の工夫や良さについて、グループではICT端末を使って交流する。クラス全体では、大型モニターを併用しながら交流する。

【事例におけるICTの活用の場面③】

○毎時間の振り返りを学習支援ソフトを使って記入し、提出及び共有を行う。

【国語・小3・「はっとしたことを詩に書こう」②】

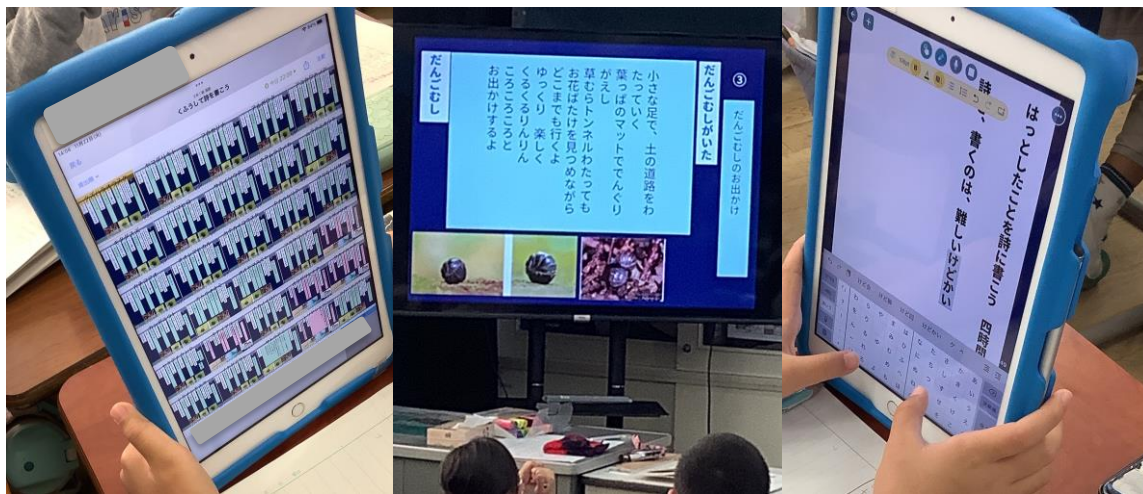
【事例におけるICT活用の場面①】



○1つの課題につき、書き込みの量や部分が異なる複数のパターン(計6種類)のワークシートが配布されたことで、自分の力に応じてワークシートを選択することができ、児童が意欲的に作品作りに取り組むことができた。また、早く課題を終えた児童が、別のワークシートに取り組むなど主体的に取り組む姿が見られた。

☆複数のワークシートを扱う場合、ICT端末を活用することで配布と回収を瞬時に行うことができる。

【事例におけるICT活用の場面②③】



○学習支援ソフトの共有機能を用いることで、お互いの作品を読み合うことができ、交流を充実させることができた。

○クラス全体の交流では、大型モニターを使用することで、ICT端末の画面だけでなく発表者に対しても意識を向けることができた。

☆振り返りにおいても、学習支援ソフトを用いることで、スムーズな共有と蓄積が行える。